




審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1272 号	氏名	井上 都
審査担当者	主査	吉田典子	(印) 
	副主査	谷原真一	(印) 
	副主査	三橋睦子	(印) 
主論文題目： Advantages of the Variable Shift System, and Effective Use of Break Time to Better Support the Work Engagement of Nurses on Extended Day Shifts (長日勤に従事する看護師のワーク・エンゲイジメントを支える多様な勤務形態のメリットと効果的な休憩時間の過ごし方)			

審査結果の要旨 (意見)

長日勤で勤務する看護師において、ワーク・エンゲイジメントすなわち労働意欲が高い要因として、多様な勤務形態のメリットを感じていること、休み時間の過ごし方として同僚との会話や SNS など社会との繋がりが関連していたことを見出した興味深い論文である。横断研究であるため因果関係を述べるできない点、また単施設における検討であることが弱点であるが、546 名と比較的対象数は多く一定の信頼性が評価できる。本研究の結果は多様な勤務形態のメリット・デメリットを検討する際の貴重な資料となると思われる。本論文では、ワーク・エンゲイジメントと勤務形態のメリット、休憩中活動以外に、勤務負担、労働性ストレスや勤務形態のデメリットと多くの事項を調査しており、十分に検討がなされていない部分があると思われる、今後各々についてさらなる解析・検討を行い、縦断研究や多施設研究への発展を期待したい。

論文要旨

長日勤に従事する看護師のワーク・エンゲイジメントを支える要因を、勤務形態変更によるメリットと長日勤中の休憩活動に焦点を当てて明らかにする事を目的として、多様な勤務形態下で働く看護師を対象に、勤務負担、ワーク・エンゲイジメント、ストレス、休憩中活動、勤務形態のメリット・デメリットについて自記式質問紙調査を行った。休憩活動を「社交」「休憩や休息」「娯楽」「認知活動」の 4 つに分類し、メリット・デメリットを主成分分析で変数を合成した。これらの変数を用い、ワーク・エンゲイジメントを従属変数とした重回帰分析を実施した結果、ワーク・エンゲイジメントと最も関連の高い変数はメリット点であった。一方、ワーク・エンゲイジメントと負の関連のあった変数は「仕事の量」ストレインであった。休憩活動では「社交」に関連が認められた。現在行っている休憩活動では「社交」を選択した看護師が多かったものの、望ましいと思う休憩活動は「休憩やリラックス」を選択した看護師が半数以上を占めた。多様な勤務形態がもたらすメリットは長日勤を負担とする看護師のワーク・エンゲイジメントを支えていると考えられる。また、休憩中活動では「社交」の一つである“会話を含む活動”の重要性が示唆された。長日勤の負担を減らすには、状況に応じて「会話」や「休息」を選択できる休憩室の環境整備が必要であることが示された。